

分け登る 麓の道は多けれど・・・

留学生別科長 横山 博信

2017年度朝日大学留学生別科の留学生は、前期後期それぞれに50名在籍し、国別ではベトナムから51名、モンゴル9名、中国4名、ドイツ3名、ミャンマー2名の状況であった。

2001年9月にスタートした朝日大学留学生別科は、この2017年9月修了生を含め、17年間に771名の修了者を送り出してきた。進路先の内訳は、朝日大学503名、他大学25名、朝日大学大学院22名、他大学大学院12名、専門学校及び各種学校126名であり、修了生のうち89.2%の学生が日本国内の学校に進学している。うち朝日大学及び同大学院への進学率は修了生全体の68.1%に上る。

朝日大学へ入学する留学生の多くは、大学等への進学や日本での就業を願っている。そのためには、日本人と円滑にコミュニケーションがとれる日本語能力の獲得と日本文化や社会に関して日本人が有する包括的な知識の獲得が必要となる。

私たちは、彼らの充実した留学生別科での学生生活と、更には修了後の彼らの希望に満ちた生活を願い日々の指導を積み重ねている。その指導の充実を期して、私たち教員は研究を通して自己研鑽するわけである。研究と教育が両輪となり、目の前にいる留学生たちの日本語能力の向上を図ることが留学生別科の大きな目的である。

この朝日大学留学生別科紀要も第15巻を数えることができた。互いの研究・実践に学びながら更なる指導力を身に付けたいものである。

分け登る 麓の道は多けれど 同じ高嶺の 月を見るかな (傳 一休禅師)

一休禅師と親交のあった蓮如上人は、「武蔵野の 葉ごとに月は 宿れども 露無き葉に 月は宿らじ」とも説いている。

研究・実践の入口はそれぞれであっても、日本語教育の研究者・実践者として、目の前にいる留学生一人ひとりに対し真摯な態度で願いを持ってこれからもより良い指導にあたりたいと思う。